

8. 出生力調査方法論——一つの提案——……人口問題研究所 黒田俊夫  
毎日新聞社 野田 実
9. わが国1890～1920年の出生数と総出生率（General Fertility Rate）の推計——『人口転換』法則との関連によせて——……慶応義塾大学 安川正彬
10. 戦後農村出生力の低下形態……人口問題研究所 皆川勇一
11. 差別出生力に関する一研究……人口問題研究所 黒田俊夫
- シンポジウム
1. 人工妊娠中絶防止の再検討……座長……日本家族計画連盟 古屋芳雄  
人口問題研究所 篠崎信男  
国立公衆衛生院 久保秀史  
東京大学 森山 豊  
都立墨東病院 吉沢嘉夫

第2日（5月18日）

○研究発表

12. 人口移動法則300年——Graunt 初版発行300年を記念して……人口問題研究所 館 稔  
〃 小山美紗子
13. 家族経済から見た人口移動の経済的ポテンシャル……お茶の水女子大学 伊藤秋子
14. 館博士の「人口移動ポテンシャル」に関する理論的コメント……一橋大学 南 亮進  
神奈川大学 小野 旭
15. わが国の地域的人口変動の形式人口学的研究……法政大学 鈴木啓祐
16. 人口の「地域流動表」とその利用について……人口問題研究所 岡崎陽一
17. Economic Take-Off の人口要因——マルサスの均衡の安定性——一橋大学 南 亮進
18. 労働力人口の将来推計について……人口問題研究所 浜 英彦
19. 1930年、1955年職業別人口の比較について  
——1930年国勢調査職業別人口の暫定的組み替え……人口問題研究所 小林和正
20. 初期生産年齢人口を中心としてみた差別移動に関する研究……人口問題研究所 上田正夫

○シンポジウム

2. 大都市人口をめぐる諸問題……座長……慶応義塾大学 寺尾琢磨
- (1) 人口学的側面……人口問題研究所 浜 英彦
- (2) 経済および財政学的側面……東京都立大学 柴田徳衛
- (3) 社会学的側面一般……東京教育大学 安田三郎
- (4) 社会生態学的側面……慶応義塾大学 矢崎武夫
- (5) 社会心理学的側面……法務総合研究所 橋本重三郎
- (6) 精神医学的側面……東京大学 井上英二
- (7) フィジカル・プランニングの側面……東京大学 高山英華

（調査部資料科）

#### 第4回日本老年社会科学会総会の開催

昭和37年11月3日および4日の両日、日本都市センターにおいて第4回日本老年社会科学会総会が開催された（大会会長 館 稔博士）。両日とも、一般研究報告のほか特別講演ならびにシンポジウムが行なわれたが、実施されたプログラムの詳細は下記のとおりである。

第1日(11月3日)

○一般研究報告

- |   |                |               |
|---|----------------|---------------|
| 1. 人口調査に現われた老年人口の諸特性……………                                     | 厚生省統計調査部       | 上田耕三          |
| 2. 生命表における確率の導入<br>——高年齢層における平均余命の補正……………                     | 厚生省統計調査部       | 田上和子          |
| 3. 老年男子人口の就業構造について……………                                       | 人口問題研究所        | 小林和正          |
| 4. 石油コンビナートの都市における老人問題(第1報告)<br>(1) 四日市市における人口動態からみた老人問題…………… | 四日市市老人福祉問題研究会  | 土井久雄<br>青木鏡之進 |
| 5. 石油コンビナートの都市における老人問題(第1報告)<br>(2) 四日市市における老年者の死亡率について……………  | 四日市市老人福祉問題研究会  | 松井銀吾<br>青田正吉  |
| 6. 中高年労働力の変動に関する一研究……………                                      | 人口問題研究所        | 上田正夫          |
| 7. 老齢被爆自由労務者の社会医学的観察……………                                     | 広島大学原爆放射能研究所   | 志永清           |
|   | "              | 渡辺嶺男          |
|   | "              | 伊藤定八          |
|   | "              | 山本脩治          |
|   | "              | 渡辺正治          |
| 8. 老齢原爆被爆者の生活構造……………  | 広島大学原爆放射能研究所   | 渡辺正治          |
| 9. 老年期の心理学的研究……………  | 慶応義塾大学<br>千葉大学 | 荒井保男<br>青木孝悦  |
| 10. 老人教育についての私見……………  | 大阪大学           | 橋寛勝           |
| 11. チャートによる老年社会科学の現況とその批判……………                                | 寿命学研究会         | 渡辺定           |

○特別講演

- |               |        |      |
|---------------|--------|------|
| 1. 愛憎の心理…………… | 東京工業大学 | 宮城音弥 |
|---------------|--------|------|

○シンポジウム

- |                           |           |      |
|---------------------------|-----------|------|
| 1. 老年の経済学……………            | 座長…慶応義塾大学 | 寺尾琢磨 |
| (1) 経済学からみた人口老年化の諸問題…………… | 人口問題研究所   | 黒田俊夫 |
| (2) 老年の経済学の諸問題……………       | 一橋大学      | 坂本二郎 |
| (3) 老年保障の経済学的見地……………      | 慶応義塾大学    | 大熊一郎 |
| (4) 人口老年化と雇用……………         | 慶応義塾大学    | 安川正彬 |

第2日(11月4日)

○一般研究報告

- |  |          |       |
|--|----------|-------|
| 12. 英国老人の生活状況……………                             | 厚生省統計調査部 | 小林迪夫  |
| 13. 失対事業と老人……………                               | 厚生省社会局   | 森幹郎   |
| 14. 集合住宅における老人問題……………                          | 大阪市立大学   | 栗原嘉一郎 |
|  | "        | 有田信雄  |
|  | "        | 多胡進   |
|  | "        | 溝神宏至朗 |
| 15. 尼崎市における老人の読書構造<br>——公共図書館網の計画との関連において…………… | 大阪市立大学   | 栗原嘉一郎 |
|  | "        | 有田信雄  |
|  | "        | 多胡進   |
|  | "        | 中根賢哉  |
|  | "        | 溝神宏至朗 |
| 16. 最近日本における有料(軽費)老人ホームの実態……………                | 大阪義老院    | 岩田克夫  |
| 17. 有料老人ホーム入所者の実態調査……………                       | 浴風会      | 芦沢威夫  |

- 18. 農山村の講がもつ老人クラブとしての機能……………実践女子大学 福田 邦 三
- 19. 老親の生活様式と余暇活動……………中央大学 那 須 宗 一
- 20. 老人福祉の一類型としての家庭奉仕員(中間報告)……………東洋大学 塚 本 哲
- 21. ナーシングホームの実態について……………十字の園 鈴木 圭 二

○特別講演

- 2. 老年福祉学の動向について……………東海大学 大間知 千 代

○特別報告

- 後期壮年層調査の結果について……………厚生省統計調査部 日 井 隆 重

○シンポジウム

- 2. 老人のすまい……………慶長…寿命学研究会 渡 辺 定
- (1) 建築学の立場から見た老人の住い……………日本大学 木 下 茂 徳
- (2) 地域社会における老人のすまい……………慈 愛 園 杉 村 春 三
- (3) 老人の住いとしての養老施設の問題点……………大阪養老院 岩 田 克 夫
- (4) 老人のすまいに関する問題点……………評論家 石 垣 純 二
- (5) 家族制度の中におけるすまいの概念……………東洋大学 塚 本 哲

(調査部資料科)

### 日本統計学会第30回大会の開催

日本統計学会第30回大会は、昭和37年9月13日、14日の両日、仙台市、東北大学において開催された。この大会では John Graunt (1620～1674) の“Natural and political observation……”の初版刊行から300年記念の意味を含めて、次のような記念講演ならびに共同研究が行なわれた。

記念講演は、中野伊知郎、北川敏男、松川七郎の諸氏によるもので、とくに松川氏の題目は、次のとおりであった。

近代統計学の創始300年——J. グラント「諸観察」(1662年)の意味するもの

また、共同研究のテーマは、“統計学の発達をめぐって”であり、次の諸報告が行なわれた。

- 数理統計学における最近の思潮について……………竹 内 啓・関 谷 章
- 人口統計300年……………館 稔
- 集団叙述論……………水 谷 一 雄

一般報告として数理、社会・経済にわたる31題の研究発表が行なわれたが、それらのうち、人口に関するものとして次の報告があった。

- わが国1890～1920年の出生数と総出生率の推計……………安 川 正 彬
- 最近の人口移動と年齢・産業構造の変化との関係……………上 田 正 夫

(上田調査部長)

### 第7回国際家族計画会議の開催

1963年2月10日より16日まで、シンガポールにおいて第7回国際家族計画会議(7th International Conference on Planned Parenthood) が開催され、本研究所より研究部第1科長篠崎信男技官がこれに出席した。この会議は40地域より300余名の参加の下に開かれた。会議の総括テーマは Changing Patterns in Fertility である。篠崎技官は第6日目(2月15日)の“人工妊娠中絶の役割、The role of abortion”に関する研究分科会の議長として活躍した。会議の概要については、本誌本号に掲載の篠崎技官執筆の概況報告を参照されたい。